

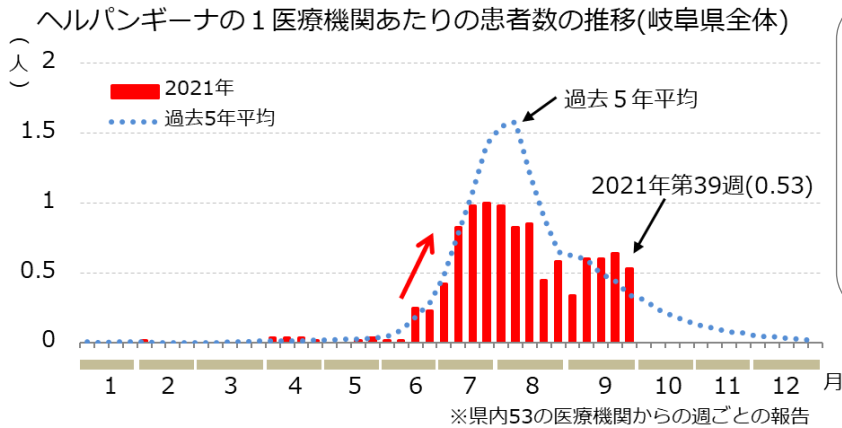
ぎふ感染症かわら版



令和3年10月8日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

ヘルパンギーナの流行が続いています！

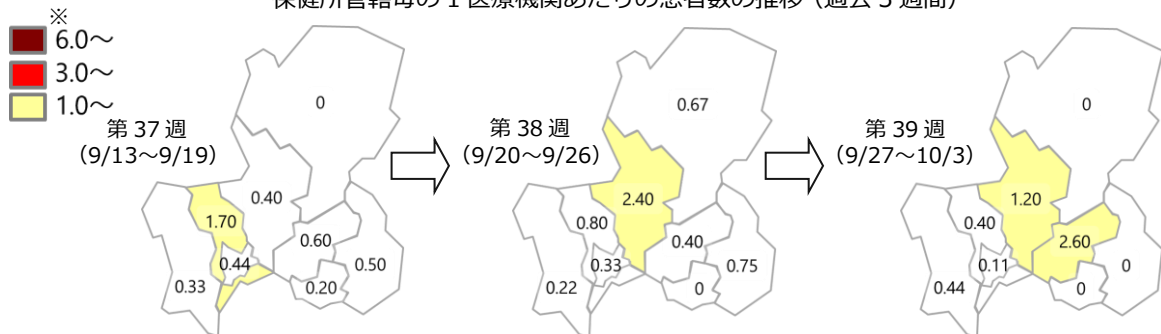
6月から岐阜県内でヘルパンギーナの患者報告数が増加し、9月末になっても減少傾向があまりみられません。ヘルパンギーナは乳幼児を中心に夏季に流行する夏かぜの一種ですが、小さいお子さんのいる家庭や保育所などでは今後も注意が必要です。



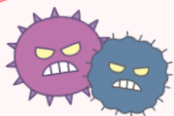
ヘルパンギーナは、5才以下のお子さんが多くかかります。り患すると高熱が出て、のどが赤くなり口の中に水疱（水ぶくれ）ができます。多くの場合、数日で自然に治りますが、のどの痛みが強いため、食事や飲み物を受けつけず脱水症を起こすことがあります。また、まれに髄膜炎などを起こすことがあります。



保健所管轄毎の1医療機関あたりの患者数の推移（過去3週間）



※ ヘルパンギーナの場合、1医療機関あたりの患者数が6以上になると、該当する保健所管内に警報が発せられます。



ヘルパンギーナは、コクサッキーウイルスなどのエンテロウイルスに分類されるいくつかのウイルスにより起こります。エンテロウイルスは、感染した人の唾液や便の中に出てくるため、それらに触れた手指や（**接触感染**）、咳やくしゃみ（**飛沫感染**）によってウイルスが口や鼻に入ることによってうつります。

- 予防のため石けんを使った手洗いと、アルコールによる手指の消毒をおこないましょう。特にトイレの後や、お子さんのおむつ交換をした後は石けんで手を洗いましょう。唾液のついたおもちゃなどは洗浄・消毒しましょう。

※このウイルスは、症状が治まった後も2～4週間、便の中に出てくることもあり、長い間周りの人への感染源となるので注意が必要です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

